

中小企業景況調査について

1 調査目的

この調査は、半期毎に清須市商工会が行う中小企業景況調査から、同地区内における経済動向等に関する情報の分析を行い、効果的な経営支援の実施ならびに事業活動の参考とすることを目的とする。

2 調査要領

(1) 調査対象時期

令和5年10月から令和6年3月の下半期を対象とし、調査時点は令和6年5月31日。

(2) 調査対象企業

清須市商工会地区内73企業。

内訳は、製造業9企業、建設業17企業、小売業15企業、飲食業16企業、サービス業16企業。

(3) 各調査項目の数字及び記号の説明

本報告書の中のDIとは、景気動向指数と呼ばれるもので、各項目調査についての増加(上昇、好転)企業割合から減少(低下、悪化)企業割合を差し引いた数値。

この数値と記号の関係については下記の通り。

雨	曇りのち雨	曇り	晴れのち曇り	晴れ
				
△100.0～△60.1	△60.0～△20.1	△20.0～20.0	20.1～60.0	60.1～100.0

中小企業景況調査報告書(清須市概略版)

(令和5年10月～令和6年3月期実績、令和6年4月～令和6年9月期見通し)

1 清須市商工会地区内における産業全体景況

産業全体は売上額DI、採算DIは悪化、資金繰りDIは横ばい

今期の産業全体における景況は、売上額DIが1.4、採算DIが-8.2となり、対前期比でそれぞれ-8.1ポイント、-9.6ポイント悪化した。資金繰りDIが-2.7となり、対前期比で横ばいとなった。

産業全体では、売上額DIが悪化しているもののプラス値を維持している。中でも小売業は、大幅に売上額DIを悪化させている。採算DIは全産業で悪化の傾向にあり、材料・仕入コストの上昇、その他経費の増加により採算が悪化している。

次期の産業全体は、売上高DI、採算DI、資金繰りDI、すべての指標が悪化する見通しである。

産業全体の主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	1.4% (対前年比 1.4 改善)	次期予想	-12.3% (対前年比 -21.8 悪化)
・採算DI	-8.2% (対前年比 5.7 改善)	次期予想	-19.2% (対前年比 -20.6 悪化)
・資金繰りDI	-2.7% (対前年比 2.9 改善)	次期予想	-13.7% (対前年比 -11.0 悪化)

産業全体景況天気図

総評



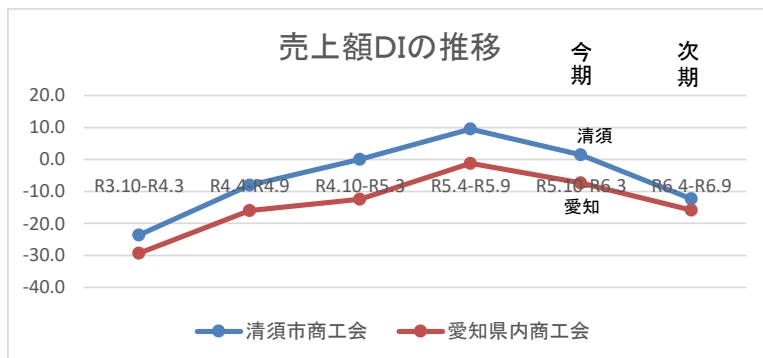
時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
3年10月～4年3月		-23.6%		-22.2%		-13.9%
4年4月～4年9月		-8.1%		-31.1%		-17.6%
4年10月～5年3月		0.0%		-13.9%		-5.6%
5年4月～5年9月		9.5%		1.4%		-2.7%
5年10月～6年3月 (今期)		1.4%		-8.2%		-2.7%
6年4月～6年9月 (見通し)		-12.3%		-19.2%		-13.7%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

2 愛知県内商工会（愛知県）と清須市商工会（清須市）との比較

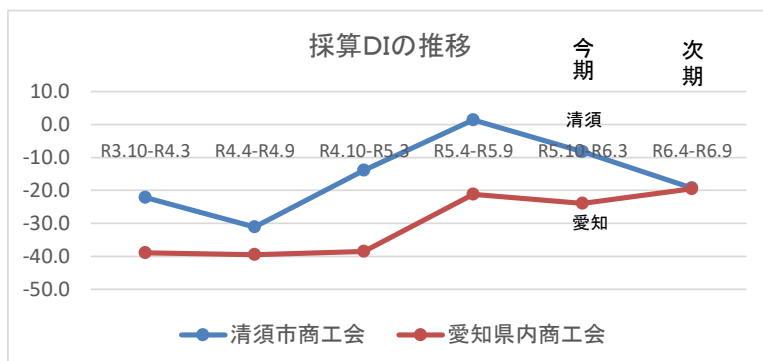
①売上額DI

清須市は前期まで右肩上がり回復してきたが今期は悪化した。愛知県も同様の動き。指標値は清須市が上回っている。次期は清須市、愛知県共に悪化する見通し。



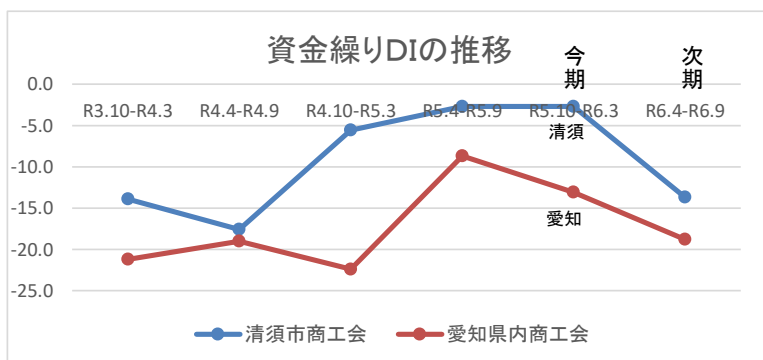
②採算DI

清須市は前期比で悪化しマイナスとなり、愛知県も若干悪化した。指標値は清須市が上回っている。次期は清須市が悪化、愛知県は改善する見通しで、指標値はほぼ同水準となる。



③資金繰りDI

清須市は前期から横ばい、愛知県は悪化し差は広まった。次期は清須市が大きく悪化、愛知県も悪化する見通し。清須市と愛知県の差は縮まる。



【全産業平均】

売上額DIの推移

時期	R3.10-R4.3	R4.4-R4.9	R4.10-R5.3	R5.4-R5.9	今期 R5.10-R6.3	次期 R6.4-R6.9
清須市商工会	-23.6	-8.1	0.0	9.5	1.4	-12.3
愛知県内商工会	-29.3	-16.0	-12.4	-1.2	-7.4	-15.8

採算DIの推移

時期	R3.10-R4.3	R4.4-R4.9	R4.10-R5.3	R5.4-R5.9	R5.10-R6.3	R6.4-R6.9
清須市商工会	-22.2	-31.1	-13.9	1.4	-8.2	-19.2
愛知県内商工会	-38.9	-39.5	-38.5	-21.2	-24.0	-19.5

資金繰りDIの推移

時期	R3.10-R4.3	R4.4-R4.9	R4.10-R5.3	R5.4-R5.9	R5.10-R6.3	R6.4-R6.9
清須市商工会	-13.9	-17.6	-5.6	-2.7	-2.7	-13.7
愛知県内商工会	-21.2	-19.0	-22.4	-8.7	-13.1	-18.8

※愛知県内商工会の数値は、愛知県商工会連合会が作成する中小企業景況調査報告書（愛知県概略版）から引用

3 業種別景況

(1) 製造業

製造業は売上額DI、採算DIが悪化、資金繰りDIが改善

製造業では、売上額DIが0.0、採算DIが-11.1となり、対前期比でそれぞれ-10.0ポイント、-21.1ポイント悪化した。資金繰りDIが-11.1となり、対前期比で+8.9ポイント改善した。

売上額DIは悪化しているが均衡（ゼロ値）している。採算DIは大幅に悪化しており、原材料及びその他経費の高騰の影響を受けている。資金繰りDIも採算DIと同じ値であるが、前期からは改善傾向にある。

次期は、売上額DI、採算DIは悪化、資金繰りDIは横ばいの見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	0.0% (対前年比 -10.0 悪化)	次期予想	-22.2% (対前年比 -32.2 悪化)
・採算DI	-11.1% (対前年比 -1.1 悪化)	次期予想	-22.2% (対前年比 -32.2 悪化)
・資金繰りDI	-11.1% (対前年比 -21.1 悪化)	次期予想	-11.1% (対前年比 8.9 改善)

製造業景況天気図



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
3年10月～4年3月		-8.3%		-8.3%		8.3%
4年4月～4年9月		0.0%		-18.2%		-27.3%
4年10月～5年3月		10.0%		-10.0%		10.0%
5年4月～5年9月		10.0%		10.0%		-20.0%
5年10月～6年3月 (今期)		0.0%		-11.1%		-11.1%
6年4月～6年9月 (見通し)		-22.2%		-22.2%		-11.1%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(2)建設業

建設業は売上額DI、資金繰りDIが改善、採算DIが悪化

建設業では、売上額DIが11.8、資金繰りDIが0.0となり、それぞれ対前期比で5.5ポイント、6.3ポイント改善した。採算DIが-5.9となり、対前期比で-12.2ポイント悪化した。

売上額DI、資金繰りDIは3期連続で改善しているものの、採算DIが悪化している。材料資材及びその他経費の高騰により採算が悪化している。

次期は、売上高DI、採算DI、資金繰りDI、全ての指標が悪化する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	11.8% (対前年比 18.5 改善)	次期予想	-5.9% (対前年比 -12.2 悪化)
・採算DI	-5.9% (対前年比 27.4 改善)	次期予想	-23.5% (対前年比 -29.8 悪化)
・資金繰りDI	0.0% (対前年比 26.7 改善)	次期予想	-17.6% (対前年比 -11.3 悪化)

建設業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
3年10月～4年3月		0.0%		-21.4%		-21.4%
4年4月～4年9月		-12.5%		-43.8%		-37.5%
4年10月～5年3月		-6.7%		-33.3%		-26.7%
5年4月～5年9月		6.3%		6.3%		-6.3%
5年10月～6年3月 (今期)		11.8%		-5.9%		0.0%
6年4月～6年9月 (見通し)		-5.9%		-23.5%		-17.6%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(3)小売業

小売業は売上額DI、採算DIが悪化、資金繰りDIが改善

小売業では、売上額DIが-20.0、採算DIが-6.7となり、それぞれ対前期比で-20.0ポイント、-0.4ポイント悪化した。資金繰りDIが6.7となり、対前期比で+13.0ポイントと改善した。

小売業はコロナ以降、他産業と比較して特に悪い状況が続いたが、前期には他産業並みに改善した。

今期は売上額DIが大幅に悪化しているが、要因は物価高騰、円安等の影響により消費行動が抑制の方向にあると考えられる。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-20.0% (対前年比 40.0 改善)	次期予想	-33.3% (対前年比 -33.3 悪化)
・採算DI	-6.7% (対前年比 33.3 改善)	次期予想	-33.3% (対前年比 -27.0 悪化)
・資金繰りDI	6.7% (対前年比 33.4 改善)	次期予想	-26.7% (対前年比 -20.4 悪化)

小売業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
3年10月～4年3月		-46.7% ↗		-26.7% ⇐		-26.7% ⇐
4年4月～4年9月		-40.0% ↗		-40.0% ↘		-13.3% ↗
4年10月～5年3月		-60.0% ↘		-40.0% ⇐		-26.7% ↘
5年4月～5年9月		0.0% ↗		-6.3% ↗		-6.3% ↗
5年10月～6年3月 (今期)		-20.0% ↘		-6.7% ↘		6.7% ↗
6年4月～6年9月 (見通し)		-33.3% ↘		-33.3% ↘		-26.7% ↘

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(4) 飲食業

飲食業はすべての指標が悪化

飲食業では、売上額DIが6.3、採算DIが-25.0、資金繰りDIが-12.5となり、対前期比でそれぞれ-17.2ポイント、-7.4ポイント、-6.6ポイントと悪化した。

売上面は悪化したもののプラスの方向にある。採算面の悪化が拡大しており、材料仕入及びその他経費の高騰が採算を悪化させている。採算（収益）の悪化に伴い、資金繰りも悪化の方向にある。

次期は、売上額DI、採算DI、資金繰りDI、すべての指標が更に悪化する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	6.3% (対前年比 -29.0 悪化)	次期予想	-25.0% (対前年比 -48.5 悪化)
・採算DI	-25.0% (対前年比 -19.1 悪化)	次期予想	-31.3% (対前年比 -13.7 悪化)
・資金繰りDI	-12.5% (対前年比 -18.4 悪化)	次期予想	-18.8% (対前年比 -12.9 悪化)

飲食業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
3年10月～4年3月		-11.8%		-11.8%		0.0%
4年4月～4年9月		17.6%		-29.4%		-5.9%
4年10月～5年3月		35.3%		-5.9%		5.9%
5年4月～5年9月		23.5%		-17.6%		-5.9%
5年10月～6年3月 (今期)		6.3%		-25.0%		-12.5%
6年4月～6年9月 (見通し)		-25.0%		-31.3%		-18.8%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(5) サービス業

サービス業はすべての指標が悪化

サービス業では、売上額DIが6.3、採算DIが6.3、資金繰りDIが0.0となり、対前期比でそれぞれ-0.4ポイント、-13.7ポイント、-20.0ポイント悪化した。

当期は全ての指標が悪化したものの、すべての指標は±0以上のプラスの方向にある。但し、採算面が、資金繰り面が大幅に悪化しており、物価高騰等による採算（収益）の悪化、それに伴い資金繰りも悪化しているものと考えられる。

次期は、売上額DI、採算DI、資金繰りDI、すべての指標が改善する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	6.3% (対前年比 -13.7 悪化)	次期予想	18.8% (対前年比 12.1 改善)
・採算DI	6.3% (対前年比 -13.7 悪化)	次期予想	12.5% (対前年比 -7.5 悪化)
・資金繰りDI	0.0% (対前年比 -13.3 悪化)	次期予想	6.3% (対前年比 -13.7 悪化)

サービス業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
3年10月～4年3月		-50.0%		-42.9%		-28.6%
4年4月～4年9月		-6.7%		-20.0%		-67.0%
4年10月～5年3月		20.0%		20.0%		13.3%
5年4月～5年9月		6.7%		20.0%		20.0%
5年10月～6年3月 (今期)		6.3%		6.3%		0.0%
6年4月～6年9月 (見通し)		18.8%		12.5%		6.3%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

4 経営上の問題点

今期、直面している経営上の問題点を業種別に示したものである。

今回も全業種で、原材料・材料等仕入単価の上昇、その他の経費の増加が上位を占めており、物価高騰、円安等の影響が現れている。次いで、顧客のニーズ変化、需要の停滞、人材不足が問題として現れている。

業種	順位	問題点	割合
製造業	1位	原材料価格の上昇	25.0%
	2位	需要の停滞	20.8%
	3位	製品ニーズの変化への対応	16.7%
建設業	1位	材料価格の上昇	27.3%
	2位	材料費・人件費以外の経費の上昇	15.2%
	3位	請負単価の低下・上昇難	9.1%
小売業	1位	仕入単価の上昇	35.9%
	2位	消費者ニーズの変化への対応	12.8%
	2位	人件費以外の経費の増加、需要の停滞	12.8%
飲食業	1位	材料等仕入単価の上昇	30.8%
	2位	人件費以外の経費の増加	25.6%
	3位	利用者ニーズの変化への対応、店舗施設の狭隘・老朽化	10.3%
サービス業	1位	人件費以外の経費の増加	17.6%
	2位	材料等仕入単価の上昇	14.7%
	2位	従業員の確保難	14.7%

5 取り組むべき経営課題

問題の解決に向けた経営課題を全産業平均及び業種別に示したものである。全産業において、従来から課題である販路開拓は依然として1位である。次に物価高騰等により採算が悪化していることからコスト削減も課題となっている。今期は現場改善、設備投資が上位にあるが、これも生産性向上による採算面の改善、人手不足対策と考えられる。

業種	順位	経営課題	割合
製造業	1位	販路開拓	27.3%
	2位	設備投資	18.2%
	2位	コスト削減、新製品開発	18.2%
建設業	1位	販路開拓	26.1%
	2位	人材募集	17.4%
	2位	現場改善	17.4%
小売業	1位	販路開拓	39.1%
	2位	コスト削減	26.1%
	3位	現場改善	17.4%
飲食業	1位	現場改善	23.8%
	2位	販路開拓	19.0%
	2位	コスト削減	19.0%
サービス業	1位	販路開拓	25.0%
	1位	設備投資	25.0%
	3位	人材募集	20.8%
全産業平均	1位	販路開拓	27.5%
	2位	コスト削減	18.6%
	3位	現場改善	14.7%